写

令和５年６月定例仙台市社会教育委員の会議　会議録

1　開催日　　令和５年６月２日（金）

2　開会及び
　閉会の時刻　　午前 10 時 00 分開会　　12 時 00 分閉会

3　開催場所　　仙台市役所教育局第１会議室

4　出席委員氏名　　阿部哲也委員，泉山靖人委員，亀井あかね委員，齋藤愛委員，
高城みさ委員，内藤良介委員，中山慎也委員，野原昌之委員，
広瀬剛史委員，松本大委員，若生彩委員（11 名出席）

5　事務局職員　　武者生涯学習支援センター長，田村生涯学習課長，
加藤生涯学習課主幹，三澤生涯学習課企画係長，
古谷生涯学習課生涯学習係長，
生涯学習支援センター事業係　村田主査
生涯学習課生涯学習係　佐々木主査，間宮主査

6　会議の次第
（１）開会
（２）挨拶　松本委員長
（３）協議事項
　①　提言の骨子案・構成案について
（４）その他
　①　令和４年度社会教育関係団体の活動実績について
（５）閉会

7　会議の概要
（１）協議事項
　①　提言の骨子案・構成案について
　資料２及び資料３について委員長から説明後，提言書の形式について確認を行った。その後，提言書の骨子案・構成案の各項の具体的内容及び執筆分担についてグループごとに調整を行い，全体で共有した。
　提言書の形式についての確認は以下のとおり。
・幅広い層に読まれる提言書を目指し，印象を和らげるため敬体で執筆する。
・全体で偏りが出ないよう，小項目ごとに１ページ程度にまとめる。
　調整にあたっての質疑，確認事項は以下のとおり。
・小項目ごとに担当を決めるとのことだが，一人につき１項目と整理できるわけではなく，場合によっては一人で２，３項目担当することもあり得る。小項目のうち関連する内容があれば，同じ委員が担当するなど項目をグルーピングするのがよいと考える。
　→不均等にならない程度に各グループで調整することとする。

・小項目の内容について，実際に調査したものとしていないものが混在しているが，後者について追って調査を行うものか。
→基本的にはこれまでに調査した内容を踏まえ，今後の在り方として重要と考えられるものを示唆する形での提言と考えるが，調査で触れていない内容についても，今後期待されることを盛り込んでいただくのがよいと考える。

調整の結果は以下のとおり。

【１】文化グループ（報告：亀井委員）

○項目について

・中項目２（１）の小項目について，子育てグループと構成を合わせることとした。また，「プラットホーム・場の形成の必要性」といったところを出発点とし論を進めていくのがよいと考えるため，当該の中項目の名称についても，「プラットホームとネットワークの形成の必要性」という意味合いのものに修正することとした。

・文化と子育てそれぞれについて，関心に応じて部分的に読んだ場合にも全体像が把握できるよう，中項目の中で小括を設けたい。

・執筆の担当について，必ずしも一人１項目担当するのではなく，内容に応じて１項目を３，４名で分担したり，デジタルとリアルなど対応する項目の文章量を揃えたりするなどの調整を行うこととした。

○文化グループの原稿の取りまとめについて

・６月 29 日に文化グループでオンライン会議を行い，各執筆担当の原稿を集約することとしたため，それまでに各自で該当部分の構成やキーワード，または文章などをまとめる。７月４日を目途に，事務局に取りまとめた原稿を提出する予定。

○執筆分担について

・執筆分担については別紙のとおり。

【２】子育てグループ（報告：齋藤委員）

○項目について

・中項目３（１）の小項目の①と②をセットにして執筆することとした。③については，「団体のデータベース化」がキーワードとして提示されているが，データベース化の促進をすぐに実現するのはなかなか難しい状況にあり，内容を落とし込みにくい。まずは実際の子育て世代がどのようにして情報を得ているか，またデジタルに接しているのかといった実状を示したうえで，それに沿った社会教育施設や子育て支援団体による望ましい支援の在り方について言及する方針とした。

・中項目３（２）の小項目の①と④をセットにして執筆することとした。

・中項目３（３）の小項目の①と②をセットにして執筆することとした。「多様な属性の人びとが参加できる」ということについては，表現が難しい部分もあるが，参加を促す工夫という形で調査した施設などの事例を挙げ，読み手の参考となる提言を目指すこととした。

○執筆分担について

・欠席委員の分担については，調査や視察などの経緯を踏まえて調整した。詳細は別紙のとおり。

②その他

委員長より今後の進め方について説明がなされた。

今後の進め方についての質疑，確認事項は以下のとおり。

・１ページの文字数の目安はどの程度か。提言書のフォーマットを示してほしい。

→事務局より参考様式を提示する。体裁を整えるなどの最終的な編集については事務局で行う。

・過去の提言書は字が多い印象だが，わかりやすいように写真や図を載せることは可能か。

→必要に応じて掲載することとする。

・大項目１「仙台市における現状ー文化・子育てー」については事務局の執筆となるのだろうが，内容や，提示するデータの共有がないと委員が執筆する部分と重複が生じる可能性がある。事務局担当部分と委員担当部分の内容を調整するためにも，いつ頃示されるのか確認したい。もしくは，こちらから執筆に必要なデータなどを求めた方がスムーズか。

→基本的な情報やデータについては当該の項目または資料編で示すこととし，執筆者の要望に応じて，提言に必要となるデータを提供することとする。素案を集約後，各担当部分について調整する。

・文化グループから提案のあったとおり，文化，子育ての各編で小括を入れることとする。執筆担当については別途調整することとする。

（６）その他

① 令和４年度社会教育関係団体の活動実績について

資料５に基づき，令和４年度社会教育関係団体の活動実績について確認した。

「仙台市社会教育委員の会議実施要領」第４条及び第５条に基づき会議録を作成し，同要領第６条に基づき委員長及び会議録署名人が署名押印する。

令和 5 年 8 月 4 日

委員長　　松本 大

会議録署名人　　内藤 良介

別紙

持続可能な地域づくりに社会教育が果たす役割～地域人材の育成を視点として～（提言書骨子案・構成案）

骨子・構成案				担当者
大	中	小	内容	
はじめに				松本委員長
検討の経過について				
1　仙台市における現状 ー文化・子育てー	1（1）仙台市における地域人材育成をめぐる現状（文化）			事務局
	1（2）仙台市における地域人材育成をめぐる現状（子育て）			
	1（3）まとめ			
2　地域における文化に関わる人材育成	2（1）プラットホームとネットワークの形成の必要性（仮） ~~2（1）ネットワークへの支援（人材育成に関わる「プラットホーム」の形成）~~	①プラットホームになる「場」の形成（仮）		野原委員
		②「リアル」なネットワークの形成	・施設間の連携（市民センター，学校，児童館など）（例：荒町） ・団体との連携（社会学級，PTA関連）（例：愛子） ・市民が身近で相談しやすい環境づくり（ノウハウ，助成金など） ・情報交換や出会いの場の形成	中山委員
		③「デジタル」なネットワークの形成	・団体のデータベース化やアーカイブ化 ・情報の収集・共有・発信・活用	亀井委員
	2（2）人への支援（「人材育成に関わる人材」の育成）	①「教える人」の育成（例：荒町）	・子どもに関わる専門性の形成 ・市民センターの講座など，市民の学習の場で活躍できる人材の育成	野原委員，広瀬委員，松本委員，若生委員
		②「主体的に関わる人を育成できる人」の育成（例：愛子，ReRoots）	・普段の社会教育における活動や学習の中で人びとは成長するという視点が重要 →そのためには熟議のファシリテーターの育成が重要	
		③ネットワークを「つくったり」「活用できる」人材の育成	・リアル ・デジタル	亀井委員，中山委員
		④社会教育関係職員の力量形成	・社会教育施設や社会教育関係職員には，「人材育成に関わる人材」の育成や支援をすることが求められる。	泉山委員
	2（3）活動への支援（「活動の魅力化」とその「発表」の「循環」の形成）	①「発表の場」の創出・増加を通した活動の維持・発展		若生委員
		②「活動の魅力化」の推進	・「発表の場」だけでは活動は発展しない ・活動の価値を発見し高める「学び」が重要	広瀬委員
		③活動場所となる施設の使いやすさの促進		泉山委員
	2（4）　小括			亀井委員，松本委員
3　地域における子育てに関わる人材育成	3（1）ネットワークへの支援（人材育成に関わる「プラットホーム」の形成）	①プラットホームになる「場」の形成	・情報を共有したり，地域の人材や団体を「知る機会」の創出（例：岩切） ・市民が地域の中でお互いに「知り合い交流する機会」の創出（例：岩切） ・この「場」を通した「お互いさまの意識」の形成 ・市民センターの機能の周知	齋藤委員
		②「リアル」なネットワークの形成	・施設間の連携（市民センター，学校，児童館など） ・団体との連携（例：岩切） ・学校，家庭，地域の連携（例：生出） ・行政の各部署の連携の必要性（例：子ども劇場）	
		③「デジタル」なネットワークの形成	・団体のデータベース化	内藤委員
	3（2）人への支援（「人材育成に関わる人材」の育成）	①コーディネーターの育成	・世代や所属を越えた「つながり」の形成が求められる	髙城委員
		②活動の中心となるキーパーソンの育成	・「チャレンジ精神をもつ人」「何かやりたい人」を育成し支える仕組みづくり ・ボランティアスタッフの育成（例：子ども劇場）	安藤委員
		③話し合いによる人材育成	・委員だけではなく多くの人びとが話し合いを通して，学びあう（例：生出）	石垣委員
		④社会教育関係職員の力量形成	・社会教育施設や社会教育関係職員には，「人材育成に関わる人材」の育成や支援をすることが求められる。 ・「伴走者」	髙城委員
	3（3）活動への支援（参加者の多様性と参加しやすさの促進）	①参加のハードルを下げる工夫	・活動する人びとが楽しむことで，イベントに参加しやすい雰囲気づくり（例：生出）	阿部委員
		②多様な属性の人びとが参加できるための工夫	・自身の年齢や所属，保護者の就労の有無，子どもの年齢に関わらず気軽に参加できるための支援（例：きしゃぽっぽ）	
	3（4）　小括			朴委員
おわりに				松本委員長